

## 介護職員永年勤続14名が受賞

去る2月4日（木）、大宮ソニックシティにおいて「介護職員永年勤続表彰式」が執り行われました。これは、急速に高齢化が進む中、介護人材の確保・定着を最重要課題の一つと位置付ける埼玉県が「多年にわたり介護職務に精励したものを県知事が表彰することにより、当該職員を慰労するとともに他の介護職員の勤労意欲を高め、介護職員等の定着率の向上を図る」ことを目的に開催したものです。



左から  
吉川和子 CW、藤原敦子 CW

今回は勤続10年表彰において、当施設から14名の介護職員が表彰されました。平成15年の開設当初から「平成の森ひとすじ」で頑張ってくれているスタッフがこれだけいることについては、感慨深いものがあります。

表彰式には、受賞者を代表して藤原敦子CW(ケアワーカー)と吉川和子CWが出席しました。式典は、介護の仕事のPR活動を担う若手介護職員26名からなる「介護の魅力PR隊」による未来に向けた力強い所信表明に始まり、続いて上田清司埼玉県知事から温かいご祝辞・激励を賜るなど、「これまで十数年、介護の仕事に携わってきて良かった」と思わせてくれる充実のひと時となりました。

(介護老人保健施設 平成の森 事務課 濱崎 智徳)



## 埼玉県介護老人保健施設大会にて発表

第21回埼玉県介護老人保健施設大会において、「移乗用リフト導入・スカイリフト使用について」発表しました。初めての発表ということもあり緊張しましたが、他施設からの質疑応答もあり、私たちの取り組みに興味を持っていただけましたようです。

導入直後、リフトに対し職員は苦手意識がありましたが、職員の介助量の軽減のみならず、利用者の心身機能の活性化に繋がることを今回の事例を通して学びました。他施設からもスカイリフトに関する発表があり、操作に対する不安改善への取り組みについて報告されていました。介護現場においてリフトは注目されてきています。利用者様やご家族に、

スカイリフトの安全性と効果を伝え、継続して活用していくことが、私たちの今後の課題と考えます。

老健大会に参加して、介護に関わる多くの施設や職員の介護に対する積極的な取り組みについて意見を聞くことが出来、とても励みになりました。これからも自立支援に向け、積極的に取り組んでいきたいと思ひます。

(介護老人保健施設 平成の森 高橋道子)



## 見事な「よさこい」を披露

平成 28 年 2 月 27 日（土）、川島町で長きにわたり障がい者の方々を支援されてきた「社会福祉法人ウィング」様の事業所の一つである「ライフサポートそら」の皆様が、当施設の通所リハビリテーションにおいて、とても力強い見事な「よさこい」を披露してくださいました！よさこいの他にも、SEKAI NO OWARI（セカイノオワリ）の楽曲「RPG」に合わせたダンスや、「手のひらを太陽に」、「幸せなら手をたたこう」を利用者様と一緒に手話を交えながら合唱するなど会場一体となって大いに盛り上がりました。演者の皆様は、およそ 1 年に渡り稽古を重ねて来られたそうですが、その努力と成果が十二分に伝わって参りました。当日 45 名の利用者様も、なかなか体験することのできない一体感を得られたようで、ご満悦でした。（平成の森 通所リハビリテーション 小日向 只江）



## 第3回慢性期リハビリテーション学会で発表

2 月 27 日、28 日の二日間、神戸市三宮で開催された第 3 回慢性期リハビリテーション学会に、病院の言語聴覚士 3 名で参加しました。この学会は当院のような回復期病棟と療養病棟を有する施設のリハビリスタッフが集う会で、全国津々浦々から多くの方々が参加していました。

今回は言語聴覚士の高橋が『回復期病棟入院中の脳卒中患者による時計描画テストと MMSE との相関と評価項目の検討』という演題発表をしました。内容は“時計描画テスト”という時計の絵を描いてもらう簡単な方法で、一般的に広く用いられている検査と、ほぼ同じ評価結果を得ることが出来るというものです。会場は予想よりも広く、多くの方々が来場していましたが、滞りなく行うことができ、少しは病院の宣伝になったのではないかと思います。

夕食は事前に調べた大人気のお店でローストビーフ丼を味わい、三宮の夜を満喫することが出来ました。多くの発表を聴いて学ぶことも多く、色々な意味でとても有意義な二日間になりました。

（平成の森・川島病院 言語聴覚士 吉田 了）



## こんにちは！訪問看護です！

訪問看護ステーション平成の森 所長 河合芳恵

ステーション開設から尽力をつくされた有吉所長から引継ぎ「訪問看護ステーション平成の森」の 2 代目の所長として、4 月 1 日から就任いたしました河合芳恵です。在宅復帰が推奨され、川島町も多分にもれず、在宅療養をしている方が年々増加しています。訪問看護は医療面を支援する役割を担ってはいますが、それだけでは全人的に見守るのは困難なものです。主治医や他職種、インフォーマルな関わりとも連携を図り、包括的な介入のもと多角的に看る事で最善の方法を選択し、24 時間緊急時でも対応できるステーションを作っています。更に療養者さんを中心にご家族や様々な介護サービス等との細やかな調整・連携をし「快適な在宅療養」すなわち療養者さんが、自分らしく、住み慣れた我が家で生活できるということを常に心がけています。「訪問看護を利用してよかった」と言われるような信頼と安心感がもてるようなステーション作りをこれからも目指していきます。訪問車をみかけたら、気軽に声をかけてください。スタッフ全員から、最高の笑顔をお届けできると思います。これからも、どうぞよろしくお願ひします。

